

常備消防の誕生

1 西臼杵広域行政事務組合消防本部と管轄地域の紹介

平成27年4月1日、宮崎県西臼杵郡に初の常備消防組織が誕生しました。

西臼杵郡3町（高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町）を管轄する西臼杵広域行政事務組合消防本部です。平成26年度までは3町全て非常備消防の地域で、火災や救急、各種届出は3町役場及び地元消防団での対応でした。

西臼杵郡は、北は大分県、西は熊本県に隣接した宮崎県の北西部に位置する高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町の3町で構成される神話と伝説が多く語り継がれる観光地域です。管内人口は約2万2,000人、管轄面積は687km²、うち約9割を山林が占めており、全体的に急峻な地形であるため、土砂崩れ等の災害に特に大きな注意を払っています。

管内位置図

宮崎
MIYAZAKI



宮崎県 西臼杵広域行政事務組合消防本部



高千穂峡



夜神楽

2 消防常備化までの経緯

近年、災害の形態も複雑多様化し超高齢化社会を反映し救急出動も増加してきたため、消防の常備化への声が強くなり、3町で数年来協議を重ねた結果、平成24年3月に合意に達し、5月に消防常備化へ向けての覚書を締結しました。平成25年度に西臼杵広域消防常備化準備室を設置し、施設及び車両の整備、人材確保と消防学校入校等人材育成を進め、平成27年4月1日に西臼杵広域行政事務組合消防本部1本部1署、県内外の消防職経験者を含めた職員数36名（消防長外、消防本部員5名、消防署員30名）、車両11台での運用を開始しました。



庁舎外観

3 常備化による変化

西臼杵広域行政事務組合消防本部が運用開始したことによる非常備時代との最も大きな変化として、救急の質の向上と迅速な医療サービスの提供を掲げています。特に、運用車両のうち4台を占める救急車（高規格救急車3台、軽自動車救急車1台）に医療従事者である救急救命士（有資格者11名）の乗車を必須としていて、これまで救急有資格者が乗車していなかったためにスクープアンドランのみの対応が行われていた地域に対して「救急隊到着と同時に医療の介入と専門的な判断が提供できる」ということを、様々な機会や広報等を利用して地域住民の方々にお伝えしているところです。常備消防地域では当然と思われる点についても、ひとつひとつを管轄地域内に浸透させていかなければならないところからスタートを切り、早くも4ヶ月が経過しました。住民の皆さんには、これまでなかった組織や建物が急に現れた状況の中、すぐに変化の多くが全ての方に理解されるわけではありませんが、講習会や庁舎見学などの小さな機会の積み重ねによって少しずつでも地域に浸透してきているのではないかと感じているところです。



通信指令室

4 常備化の今後の課題と取り組み

前述のとおり、新しい消防本部が地域に馴染むということには時間を要します。その中で当消防本部消防署の最大の強みは、職員の多くが西臼杵郡内の出身者であり、また平成26年度までは3町役場職員や地域の主要機関の職員であったということです。これまで培ってきた地域との繋がりや地域に根差した多方面での活動により生

まれたものは非常に強く、多くの方々が応援や協力をしてくださることもまた事実です。より多くの方と関わりを持ち、信頼を置いて下さっている方々の期待に応えられるよう、責任の重さを実感しながらの毎日を送っています。

現在の出動状況は7月16日現在で火災出動3件、救急出動205件、救助出動2件と決して多くはありません。

しかし、今後直近で言えば台風時期を迎えることから、土砂災害を初めとした災害の可能性や、人気のある観光地であるため県外や外国からの観光客も多く、救急搬送等も今後増加していく可能性が考えられることから、更なる備えや訓練、十分な体制作りを急ぐ必要があります。「全てのことに初めてである」ということに決して甘えず、予想される災害に対して後手にならないということを目指しながら、職員一丸となって取り組んでいます。

5 終わりに

まだ誕生したばかりの消防本部であるため、まずは目の前にあることを確実に処理していくこと、同時に将来を見据えた職員の知識や技術の向上を日々研鑽することで堅い基盤に作り上げていくことが大切です。その中で生まれるアイデア意見を組織が取り入れ、次第に新たな取り組みを始めていくことができるならば、将来西臼杵広域行政事務組合消防本部ならではの特性というものになり、職員の自信や誇りへと結びついていくのではないかと考えます。また同時に、現場活動はもちろん、火災予防や救急についてのイベントの開催その他行事等を通して、地域との新しい絆を生み出していくことで私たち組織が地域に定着し、地域を裏で支える存在となり、安心安全を届けられる信頼できる組織でありたいと思っています。

これまでに非常に長い年月の中で多くを築きあげてこられた全国の消防職員の皆様と、その組織をお手本とさせていただきながら、たくさんのことを学ばせていただき、私たちの地域に合った職員と組織を創りあげていきたいと思えます。